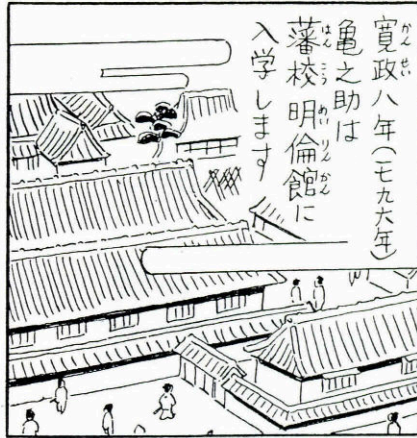


村田清風三

次建中



明倫館は武士の子供を特別に養成する学校です



寛政八年(モ九六年)亀之助は藩校明倫館に入学します



十四歳の亀之助ははじめの一年間蔵元役所に仕える父にしがこ

三隅の沢江の自宅から毎日往復四十キロの道のりを歩いて通学しました



父上だこのもう何年もこうして通っておられるのですから...

なんのこれしき



つらいか亀之助



朝は暗いうちに家を出て帰りは日が落ちています



うむ!

これ足腰を鍛錬だと思えばへでもない



父は歩きながらいろいろなことを語ってくれます

毛利家歴代の藩主のこと

中国の書物、易経に書かれている天文や、地理などの自然現象

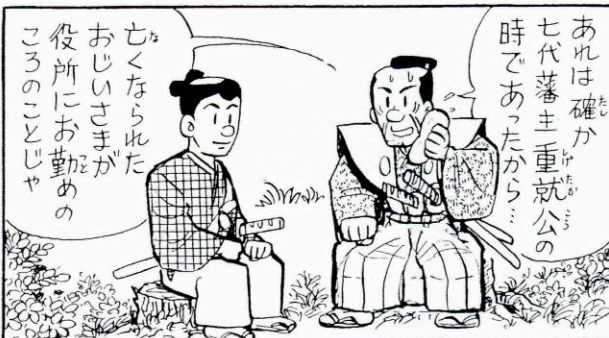
人間の運命のことなどなど...



この往復はいつかきつと役に立つ

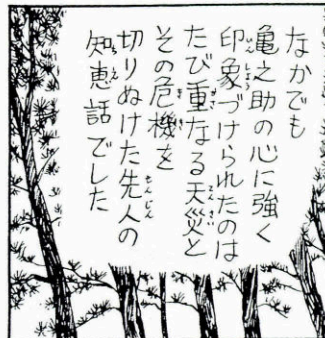
おまえもしつかり歩けよ!

はい



あれは確か七代藩主重就公の時であったから

亡くなられたおじいさまが役所にお勤めのころのことじゃ



なかでも亀之助の心に強く印象づけられたのはたび重なる天災とその危機を切りぬけた先人の知恵話でした



自分も勉学に励み彼らのように人のため藩のために役立たねば!



今でも国づくりの土台となっているのじゃよ

素晴らしいことですよ!



重就公は開作地を開いたり港を造って産業を興すことを考えられた

そのころ坂時存長沼九郎右衛門山県市右衛門の三人が藩の財政建て直しの考えをまとめたんじや